

ツの教育をうけましたし、ハーバード大学で MBA を取得しましたが、世界について何も学んでいないように見えます。私はオバマ氏に希望を抱いています。かれはコロンビア大学の国際関係学部でリベラル・アーツを学び、ハーバード大学で法学の学位をとりました。

今日、世界は強く結びついています。そのため国際的な理解は必須です。その流れから国際研究の複合的な研究プログラムについてすこしお話しします。私はヴァッサー大学で国際研究のプログラムを創設する手助けをし、この 20 年ほどそこの主任を務めています。

このプログラムでは実にリベラル教育の目的の多くを実現してきたと感じています。つまり専門課程の履修については制限を設け、状況にあった演習と学生の選択を達成したということです。各学生は伝統的な学問の 2 つに関しては上級レベルでなければなりません。その学問とは経済学と社会科学、地理学と文化人類学、フランス文学と歴史、という組み合わせです。しかし組み合わせは多く、また流動的で生物学や生物化学のように環境科学に関心のある学生は多様な科目を組み合わせています。このような学生の選択については、多領域推進委員会によってガイドラインが決められています。海外研究や外国語の習得は必須であり、学習のプロセスは論文によって締めくくられ、この学生が選択した 2 つの主要な各門分野の橋渡しをするものであります。学生の興味は成熟して、さらに変化していくので、教育は学生の関心を変更可能にする絶え間ないアドバイスの過程といえます。

今日の財政的に貧しい環境の中でこのようなプログラムを組むことはたいへん費用がかかることが難点です。このような教育プログラムに欠かせないのがチーム教育、個々の学生へのアドバイスと少人数のセミナーです。このためには今われわれが要求している価格でもすでに高すぎるかもしれません。しかしプログラムは学生が卒業した後も高く評価されています。最近、このプログラムを修了した学生の満足度を調べるアンケート調査を行いました。たった 1 通の電子メールに対して 50%以上の人から返信があり、1 名を除く全員がリベラル・アーツのプログラムにたいして「よかった」と回答しました。1 人だけ「よくなかった」と答えた卒業生は「多くの分野について知っているが、深く知っている、という満足感が不足している」、と感じていました。知識の広さと深さの両立が難しいという問題は、リベラル・アーツがいつも直面しなければならないものです。この卒業生は、現在ジョージ・ブッシュの演説を書いています。

リベラル・アーツ校に対するプレッシャー

私はリベラル・アーツのモデルは最高であるという自信はありますが、様々なプレッシャーに直面しており、各校は異なった方法でプレッシャーに立ち向かっています。

すべての学校は同じではなく異なった挑戦をうけています。

1. 指導上の奨学金 (Disciplinary scholarship)

今日の若い研究者は小さな町にずっと住み続け、教育(teaching)に携わることを以前ほど望まない傾向があります。国際会議や研究費を受け取ることに魅力を感じていて、研究成果を出すことを求められています。ということは学生を教育することに対して仕事というより、むしろ苦痛に思う研究者もいるということです。このような気持は研究、特に理論と方法(theory and technique)に集中しているときに感じます。特に PhD を出す大きな大学院のあるところでは、学生を教えるということが魅力的なキャリアとしてみなされない傾向が出ています(もちろん他の職業に比べれば仕事時間はかなり少ないと思いますが)。研究者の義務感 は 1 つの専門分野に対して強くなっている傾向があり、リベラル・アーツが目指す学問分野の統合という方向には向いていません。

2. 就職前の学生からのプレッシャー (Student pressure for pre-professionalism)

リベラル・アーツ校を出た学生のほとんどは大学院に進みません。経済学の学生の多くは好んでビジネスやコンサルティングの仕事に就きます。ただし、少なくともこのところのニューヨーク・シティの経済危機の前までですが。産業界のリーダーたちはリベラル・アーツ教育の利点に賛辞をおくっています。そしてリベラル・アーツ教育の、未来のリーダーを産み出すという役割にも賛辞をおくっています。特にリベラル・アーツ教育を受けた学生は最も優秀で世界的視野を持っていると評価しています。しかし実務レベルの仕事は、低いランクにある直属の上司が評価することが多く、またそのような上司は働く人を金融と財務会計ソフトの腕前で評価してしまうことが多いものです。学生はこのことを知っていて科目名に金融とついている科目を履修しようとしますし、学部もそのような名前の科目を提供しなければならないというプレッシャーを受けます。親たちが年間 48,000 ドルも払っているのですから親が大学に意見を言う権利もあります。

3. 教育機関に対する財政的なプレッシャー (Financial pressure on institutions)

リベラル・アーツ教育をきちんとやろうとすると 2 つの点で高価なものになります。1 つには個別の学生に対する注意やアドバイス、少人数のクラスが必要で、同じ空間に居住して行うのが最高です。そのようなことはすべて現代世界では費用のかかる高価なものです。またもう 1 つには、我々はこれまで大学教育に触れる機会がなかった人々に対して、大学教育を経験できる機会を増やしていく義務があります。たとえば海外の学生、少数民族の学生、および労働者階層の学生たちです。このようなことに加えて、アメリカのリベラル・アーツ校の殆どは創立から 130 年から 200 年経っており、大学の建物を維持するのが難しくなっています。ヴァッサー大学の建物の多くは 19 世紀後半から 20 世紀初頭に建てられました。ことわざにありますが、「新しい建物を修理するより、古い建物を直すほうが費用がかかる」といことです。ヴァッサー大学は他の大学と同様に建物修理の延期の状況に直面しています。

4.より広い社会コスト (Broader societal costs)

他の教育制度よりもリベラル・アーツのしくみが大きくなればなるほど、多くの学生が、より長い期間、大学で学びます。そのため社会の支払う教育コストは高くなります。

5.入学者数の減少 (Falling potential student numbers)

2009年にはアメリカの人口の最も多い年齢階層は17歳から18歳と予測されています。戦後のベビーブーマーの人たちの子どもたち、つまり私の世代が生んだ子どもたち世代の人口は2009年以降は減っていくということです。これは大学にとっては顧客を得ることが難しくなるということになり、学費を下げて学生数を維持するということになるでしょう。

男女の学生数のバランスを取るのが難しくなりますね。男性は女性よりリベラル・アーツを選択しませんし、女性より勉強しませんね。

このようなプレッシャーの結果として、われわれはなすべき点は適応するように努め、断固反対しなければならないところでは反対しなくてはならなくなります。このリベラル・アーツ教育は未来の世代に残していかなければならないモデルだと私は信じています。その理由は1つには、このリベラル・アーツ教育をすれば個人が自分の優れた点を見つけることができるからです。またもうひとつの理由は、リベラル・アーツ教育をすることによって、ある問題が生じた時、広い思考能力、情報に対する思考能力をもった個人や指導者を育てることが可能になるからです。リベラル・アーツ教育をすることで、この世界はグローバル化と21世紀のなかを生き残ることができるでしょう。